

調布 狛江 保護司会だより

NO. 45

発行責任者

調布狛江保護司会
会長 相田常行



(写真提供：深大寺)

故張堂完俊住職を偲んで

調布・狛江地区保護司会

会長 相田常行



深大寺第八十八世山主、張堂完俊大僧正におかれましては、令和二年六月三日午後七時五十分、深大寺山内にてご遷化されました。世寿七十二歳。ご冥福をお祈り申し上げます。

生前、更生保護にご理解を頂き、平成九年社会参加活動が始まりました。活動内容は、深大寺のお堂の清掃、落ち葉掃き、仏具磨きなどを行った後、参加者全員で護摩供養、住職の法話を伺うというものです。参加した少年には参加証と保護司会からのだるまを渡し、深大寺から記念のお守りをいただいております。少年たちは、大勢の人たちとの仏具磨きや住職の法話を毎年楽しんでおりました。

平成二十三年の多摩地区保護司会連絡協議会 設立五十周年記念の式典におきまして、故張堂完俊住職による講演をいただきました。笑いの中にも意義深いお話を聞かせていただき、住職のお人柄にも触れることができ参加者一同感激した次第です。

住職がいつも言われていたことは、深大寺開創一三〇〇年へ向け、国宝白鳳仏を奉安申し上げる、南岳白鳳院の建立が念願でありました。残念ながら惜しまれるに余りあると思います。

故張堂完俊様には大変お世話になりましたが、新住職の張堂興昭様におかれましても、前任職と同様に更生保護にご理解をいただき、私たち調布・狛江地区保護司会の活動にご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「住職の言葉」

深大寺
第八十九世住職
張堂興昭様



父は日頃ことあるごとに、「人の道」や「人の誠」について厳しく論ずる一面があり、あるいは随分叱られました。それだけ私は未熟ということですが、私はいま、その教えを毎日確かめ、それに背くことがないよう、人と接する時も父ならどう対応し、どのような言葉遣いをするだろうか、一瞬でもそれを念頭に置き、そこから自分の行動を始めるよう努めています。

父を失って、脳裏に浮かぶのは、不思議と幼い頃に見ていた父の背中ばかりです。黙々と寺を掃き清めている、あるいは静かに塔婆を書いている、そういった場面での背中ばかり。しかしそこには、決して揺れ動くことのない、何とも言えぬ安心感があつたのです。その背中からは、まさに「人の道」「人の誠」が滲み出ていたと、今になって気付きます。

深大寺での社会参加活動は、今後もしも続けて下さい。特に清掃後の護摩祈禱は深大寺ならではの光輝く仏具、そして読経し護摩を焚く私たちの背中をじつと見ています。この背中に

父のような絶対的安心感と、「人の道」「人の誠」を示すことが出来るのか、僧侶の本分が試される時でもあるのです。

今後とも宜しくお願い申し上げます。



「夢を語る」 故張堂完俊住職を偲んで

調布・狛江地区保護司会
元会長 土屋 邦子

深大寺八十八世住職 故張堂完俊氏が六月三日突然逝去されました。四年前の年末、ジェイ・ユムの「調布人図鑑」に出演の折、座右の銘は「夢を語る」です。「二〇三〇年に深大寺は開創一三〇〇年を迎えます。その時を楽しみにしています。今まで将来の夢を語り、実現してきました。夢は声に出して語るとき実現に近づくと考えています。将来を担う若者には人間の力、可能性を感じられる指導をしていまして」と力強く話されました。

深大寺住職に就任され十二年、常にお寺の内外に心を配られ、数々の実績を残してこられました。調布・狛江保護司会が社会参加活動の計画を立て始めたのは二十四年前の平成九年。まだ執事長として先代

住職を補佐しておられる頃でした。問題行動を起こした少年の更生の一助として社会に貢献できる活動の場所を探し、当時、調布分区分保護司会の故内野会長が、深大寺の世話をされていた関係で、深大寺にお願いに伺いました。社会参加活動の意義、目的を説明し、少年たちの交友関係や共犯関係など不安な点は少なくないが、少年たちにとって、この活動は必ず将来意義のあるものになるはずだと、熱心に、粘り強く説明しました。

私たちの話にじつと耳を傾けて下さった張堂氏は、深くうなずかれて了解して下さいました。最初は、保護観察所の主導で活動はスタートしました。二回目からは保護司会が社会参加活動実施の中心となり、前年度の経験を生かし、活動を企画し、実現することになりました。関係者から、何か不都合なことが起こった場合、どう対処するのか危惧する意見も出ましたが、深大寺は、保護司会の熱意を理解して下さい、協力して下さいました。更女、BBSのサポートもあり、対象者の参加も八名あり、次年度への確かな手応えを感じて、活動は無事終了しました。何より心強かったのは、今後の活動について、深大寺の協力を約束して下さいましたことです。



J:COM提供

三回目は、対象者も十二名になり、関係者の参加も増えて、お堂のガラス障子を取り外して洗うなど、時間と手間の掛かる内容になっていきました。午後二つのお堂を結ぶ狭い渡り廊下に、全員が座り膝をつき合わせて仏具磨きです。大きな仏具を数人がかりで磨き上げる喜びは、日常生活では味わえないものでした。

活動が終了し、お堂に集まり、護摩祈願、そして故張堂住職の法話。「仏具を磨いていると、汚れが落ちて光ってきた。僕の心も同じで、少しずつ光り始めている。」少年たちの心に、住職のお話が生み通ったことでしょう。

故張堂住職が保護司会活動に蒔いて下さった更生保護の種は、調布・狛江の地に、しっかりと根付き、成長しています。「夢は声に出して語る時、実現に近づきます。」と話して下さいました言葉は、私たちに勇気と活力を与えて下さりました。いつまでも夢を持ち続けていけたらと願っております。



深大寺社会参加活動を振り返って

調布・狛江地区保護司会
前会長 鴨志田守久

深大寺社会参加活動も今年で二十三回を数えます。多くの少年たちがこの活動に参加しましたが、今でも少年たちの心に、人生の記録として残り続けていると思います。少年たちは社会では加害者ですが、家庭では両親の不仲や虐待など、長い間少年自身が被害を受けてきています。社会性に乏しく実体験が少ない少年たちに、境内の清掃作業、仏具磨きなど、大勢で作業の楽しさを、知ってもらえたのではないのでしょうか。

この活動が、少年たちの更生の一助となれば幸いです。「楽しく、いつまでも」を、合言葉に継続できればと思っています。

参加した少年の感想文に「お坊さんの駄洒落が面白かったです。お坊さんは真面目な人だと思っていましたが、明るい人で意外でした。」と記していました。護摩祈願や法話を静かに聞いている少年の心に、感ずることがあったと思います。

優しく迎えていただいた深大寺の皆様、感謝申し上げますとともに、心から、故張堂完俊住職のご冥福をお祈り申し上げます。

思い出のアルバム



春の叙勲



瑞宝双光章
鴨志田 守久

藍綬褒章
井上 喜一

受賞おめでとうございます

主任官挨拶



着任のご挨拶
保護観察官 廣瀬 葉月

新任保護司のご紹介



調布分区
加藤 和歌子



調布分区
吉村 実由紀

退任

令和二年八月三十一日

井上 喜一 (調布分区)

原 良夫 (調布分区)

永年に亘りありがとうございました

かりですが、未熟ながら主任官として精進いたします。まずは、一日も早く先生方にお目にかかれる日が来ることを願っております。

調布エフエムに 法務大臣感謝状

八月六日、府中刑務所において、調布エフエム株式会社に対して、第七〇回「社会を明るくする運動」における民間協力者として、法務大臣感謝状が伝達されました。

同社は、平成十八年から府中刑務所のディスクジョッキー番組「けやきの散歩道」の放送を通じて、被收容者の心情安定・情操の養育を図り改善更生に貢献してこられました。



あとがき

広報部 柿澤 正夫

本号は、本年六月三日にご逝去された深大寺前任住職張堂完俊氏のご功績を特集いたしました。調布・狛江地区保護司会は、平成九年に保護観察少年の社会参加活動を深大寺で始めました。その際、執事長をしていただいた故張堂氏に大変ご理解をいただきました。社会参加活動も二十三回を迎え、これもひとえに故張堂氏のご尽力によるものと厚くお礼申し上げます。このほかにも本紙にご紹介してありますように数々のご協力・ご支援を賜っていただきました。故張堂氏のご協力に深く感謝申し上げますとともに、張堂興昭新任職様にも引き続きご理解・ご協力をお願い申し上げます。



広報(編集)部員

- | | | |
|-----|-------|--------|
| 部長 | 柿澤 正夫 | 伊藤 知弘 |
| 副部長 | 鈴木 宗貴 | 鈴木 久美子 |
| 副部長 | 三角 武久 | 林田 堯瞬 |
| 書記 | 栗山 剛 | 愛甲 悦子 |
| 書記 | 田中 久和 | |
| 書記 | 酒井 淳 | |